

令和 2 年度の事業概況

JAたじま自己改革の取り組み状況（協同活動ハイライト）

JAたじまでは、中期計画 Plan 2020 を自己改革プログラムと位置付け、持続的な地域農業の維持・振興と暮らしやすい地域社会の実現に向けて、総合事業を通じた「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組みました。

I. 農業生産の拡大と農業者の所得増大

取組事項	具体的施策	令和2年度の取組状況・実績
直販米の販路拡大と販売体制強化	インターネット販売の拡大	ショッピングサイト「地米屋」の販売拡大 令和2年度実績 1億1,740万円（対前年比32.8%増）
コウノトリ育むお米のブランド力強化	東南アジア等への輸出拡大	輸出8か国・地域（米国・シンガポール・香港・UAE・オーストラリア・台湾・スイス・フランス）（前年比2カ国増）
たじまピーマンの生産・販売拡大	ピーマン作付本数の拡大	作付本数9.8万本で対前年比3%減少するも、生産・出荷指導により販売高は前年増（2億2,363万円 対前年比17.2%増）
朝倉さんしょの生産・販売拡大	作付本数と販路の拡大	令和2年度1,413本新植（部会設立後通算16,049本定植） 継続的な販路拡大に取り組み、7年連続の販売高増（4,227万円 対前年比12.4%増）

II. 持続的な但馬農業の実現

取組事項	具体的施策	令和2年度の取組状況・実績
稲作におけるコスト低減支援	低コスト新技術の研究・導入	多収穫米作付179.5ha（対前年比57.7%増）
	資材コストの低減	独自安価資材供給（オリジナルチップソー2,431枚供給、オリジナル黒マルチ587本供給） 園芸用低コスト肥料供給11,875袋（対前年比5.8%減）
新技術を活用した稲作の効率化	ICT（情報通信技術）を搭載した農機の導入促進	圃場管理システム（Z-GIS）の大規模農家への導入促進（17農家）（対前年比6件増）

III. 但馬牛の生産振興

取組事項	具体的施策	令和2年度の取組状況・実績
補助事業を活用した畜産振興	JAリースによる牛舎の整備	クラスター事業を活用した畜産農家の経営拡大支援
	繁殖素牛の導入	令和3年2月時点 4,126頭（対前年比+113頭）

IV. 地域の活性化

取組事項	具体的施策	令和2年度の取組状況・実績
地域に根ざした信用・共済事業の展開	次世代にとって魅力的な商品の開発と提供	各種ローンの金利軽減キャンペーン実施（12億1,771万円 対前年比14%増） ローン相談休日対応に向けたローンプラザの開設（和田山開設）
地域ふれあい活動への組合員の参画と活動の充実	地域ふれあい活動の活性化	※新型コロナウイルス感染拡大防止により多くの活動を自粛しました
地域貢献の取組	交通安全教室の開催	スタントマンを起用した自転車交通安全教室の開催 令和2年度実績管内2中学校
	食農体験教室「あぐりキッズスクール」の開講	新型コロナウイルス感染拡大防止により開催中止

JAたじま還元・助成施策実績(平成29年度～令和2年度)

《営農振興支援(助成等)実績》

(単位：千円)

No.	取組事項	具体的施策	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	担い手農家助成	担い手応援米・業務用米出荷資材費用助成	1,256	1,427	862	980
2		水稻育苗利用助成	6,675	7,687	8,621	9,017
3		CE・RC利用助成	5,981	7,126	8,287	10,119
4		肥料・農薬費用助成	11,365	11,429	12,160	11,779
5		GAP認証・有機JAS認証取得費用等助成	4,002	5,739	4,578	4,819
6	生産振興	・ピーマン・小豆・玉ねぎ等苗代助成 ・ピーマン拍動かん水装置設置助成 ・省力栽培大納言小豆種子代助成 ・ICT導入支援等	1,891	1,819	1,479	2,058
7		・農機具購入助成 ・ハウス設置費用の一部助成	23,762	2,970	—	—
8		資材店舗での購入金額に応じたポイント還元	3,156	3,047	3,027	3,044
	合 計		58,088	41,244	39,014	41,816

《畜産振興支援(助成等)実績》

(単位：千円)

No.	取組事項	具体的施策	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	経営支援	配合飼料代等助成	3,299	2,552	1,965	2,238
2		牛異常産ワクチン接種助成等(新型コロナ対策)	—	—	—	2,934
3	遺伝的多様性の確保	熊波系・城崎系保留助成	400	550	450	400
	合 計		3,699	3,102	2,415	2,638

《組合員活動支援(助成等)実績》

(単位：千円)

No.	取組事項	具体的施策	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	生活文化活動支援	女性会活動等助成	5,852	6,237	5,631	3,334
2	健康管理支援	町ぐるみ健診費用助成	2,082	2,067	1,867	1,972
3	組合員活動支援	地域ふれあい活動等助成 (ふれあい感謝祭・組合員主体活動への助成)	12,688	14,284	14,755	※ 1,129
	合 計		20,622	22,588	22,253	6,435

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた活動自粛によるものです。

《利用者還元実績》

(単位：千円)

No.	取組事項	具体的施策	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	直売所活性化	たじまんまでの購入金額に応じたポイント還元	5,000	5,157	4,594	6,478

営農事業

お米の振興

- ① 生産者所得の増大と担い手農家の作期分散に向けて、早生品種の多収穫米「ちほみのり」「つきあかり」の作付誘導を行いました。
- ② 地域と一体となったコウノトリと共に生きる環境に配慮した持続可能な農業やコウノトリ育むお米の輸出などが評価され、「令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール(有機農業・環境保全型農業部門)」において、農林水産大臣賞を受賞しました。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年開催している田植えや生きもの調査、稲刈りなどの消費者交流会は中止としましたが、インターネットを使用したりリモート交流会を開催するなど、産地PRを行いました。
- ④ 消費者のライフスタイルに應えるお米の販売チャンネルとしてインターネットサイト「地米屋」を運営しました。
- ⑤ 新たにスイスとフランス向けにコウノトリ育むお米の輸出を開始しました。

特産物の振興

- ① 需要に應える生産・出荷指導と市場への有利販売につとめた結果、販売高は前年増となりました。
- ② たじまピーマンの収量向上を目的として、拍動かん水装置の導入補助を継続的に実施しました。また、作付け開始から3年目までの生産者に対して、畝立て作業委託の一部助成を実施しました。
- ③ さらなるブランド化をすすめるため、「朝倉さんしょ」の地域団体商標を取得しました。
- ④ 担い手生産者の所得向上に向けて、TACが担い手生産者へ収穫や選別作業を省力化した大納言小豆の提案活動に取り組みました。

営農指導・利用・資材・農機事業

- ① 本格的に取り組みをスタートした早生品種の多収穫米「ちほみのり」「つきあかり」の

栽培指導や圃場巡回を実施しました。

- ② TACと総合支店長による同行訪問活動に取り組み、担い手農家や営農組織の皆さまから、JAに対する要望やご意見を伺いました。
- ③ 大規模担い手農家向けに、多収穫米の作付誘導に合わせて低コスト大型規格の農薬や銘柄統一した肥料を提案し、多くのご利用をいただきました。
- ④ 鳥獣害の減少に向けて、但馬広域営農団地運営協議会と連携して対策の先進事例や対策資材の研修会を開催しました。

直売所の活動

- ① 但馬全域からたじまんまへ手軽に出荷いただき、店舗の一層の品揃えの充実をはかるため、各営農生活センターを巡る集荷ルート便の運行を開始しました。
- ② 自社サイトを活用した「たじまんまオンラインショップ」を開店し、但馬の特産品の全国向け販売を開始しました。
- ③ 地域貢献活動の一環としてNPO法人と食材提供の協定を締結し、たじまんま(豊岡)を通じて、子ども食堂への食材無償提供を始めました。

畜産事業

繁殖和牛・但馬産肥育牛の振興

- ① 新型コロナウイルス感染拡大で外食・インバウンド需要が減退した影響により、枝肉相場が下落し、但馬家畜市場の子牛平均価格も対前年比22.9%安(▲21万6,494円)の72万5,933円となりました。
- ② 南あわじ市で開催された第102回兵庫県畜産共進会で、管内から種牛の部12頭、肉牛の部8頭が出場し、優秀な成績を収めました。
- ③ 畜産クラスター事業および県の但馬牛増頭促進事業等を活用し、管内の繁殖雌牛の増頭につとめました。
- ④ 新型コロナウイルス感染拡大に対する畜産農家支援策として、「異常産4種混合予防接

種の助成金」「繁殖用配合飼料奨励措置」を実施するとともに、引き続き「畜舎の衛生改善のための消毒液の無料配布」などを行いました。また、国の給付金・助成金受給にかかる手続き支援を行いました。

- ⑤ JA たじま主催の神戸ビーフ枝肉共励会を神戸中央卸売市場および加古川食肉地方卸売市場において年間5回開催し、但馬牛の一層の評価向上につとめました。

但馬牛のブランドを高める肉の店

- ① 全国の方に但馬牛の魅力を知ってもらうため、ふるさと納税の返礼品としての提供や、インターネット販売に取り組みました。

福祉・経済・生活事業

くらしに安心を与える福祉事業

- ① JA らしいサービスとして、豊岡東、七釜の各デイサービスセンターに、利用者が栽培から収穫までの農作業体験ができる「ふれあい農園」を設置しました。
- ② 令和3年度から八鹿介護センターと和田山介護センターを統合し、「JA たじま南但介護センター」として運営するための準備をすすめました。

くらしの安全・安心を守る生活購買事業

- ① 国産原料商品を中心とした、安全・安心でくらしに役立つ商品を、「JA くらしの宅配便」を通して女性会員や組合員にお届けしました。

快適で環境にやさしいLPガス事業

- ① 24 時間体制で利用者の保安確保につとめました。また、高齢世帯を中心に、器具の点検と安全機能説明を行う「シルバーサポート活動」に取り組みました。
- ② 組合員の生活に必要な電気を安定・安価に供給する「JA でんき」の普及活動に取り組み

ました。

健康で文化的な生活を応援する生活文化事業・旅行事業

- ① 女性会各支部の生活文化活動や健康福祉活動、組織購買への支援を行いました。
- ② 組合員の健康管理の一環として、町ぐるみ健診、特定健診を実施しました。
- ③ 日本航空機内誌(令和3年2・3月号)に「たじまんま」の紹介記事を掲載いただくなど、日本航空と共同で但馬地域への旅行客の誘客活動に取り組みました。

信用事業（地域密着型金融への取り組み）

農業メインバンクとしての取り組み

- ① 地域の「農業メインバンク」として、支店とTAC が連携して「アグリマイティー資金」の融資に積極的に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた農業者に「美しい村づくり資金」による資金繰り支援を行いました。
- ② 農畜産物の販売代金を有利に運用し農家を応援するため農家世帯支援定期貯金の取り扱いを行いました。

生活メインバンクとしての取り組み

- ① たじまの農産物が当たる JA 独自の選べる定期貯金キャンペーンを展開し、多くの方にご利用いただきました。
- ② 新たに年金を受給される方など、多くの方の年金の受給口座を JA にご指定いただきました。
- ③ 住宅ローン・マイカーローン等の資金ニーズに対応するため、ローンプラザ(豊岡・和田山)で休日にも相談できる体制を整備しました。

利用者満足度の向上

- ① 年金友の会会員へのサービスとして、誕生日・喜寿・米寿を迎えられた方へプレゼントをお届けしました。

- ② 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、組合員・利用者宅への訪問の際には事前にご連絡し、了承をいただいた上で訪問するよう配慮しました。

共済事業

ひと・いえ・くるまの総合保障の拡大

- ① 世帯の保障点検活動「3Q訪問活動」を通じて、保障の普及拡大につとめました。
- ② 充実した保障で自然災害に備えるため、建物更生共済「むてきプラス」の普及につとめました。
- ③ くるまの保障の普及拡大につとめました。

もっと便利に、さらに安心

- ① ペーパーレスとキャッシュレス契約を拡充し、組合員の利便性の向上と契約手続きの簡便化を実施しました。
- ② 広域災害の発生に備えて損害調査体制の充実につとめました。
- ③ スタントマンによる自転車交通安全教室を八鹿青溪中学校、和田山中学校、夢が丘中学校で開催し、交通安全の啓発活動を行いました。

組織面の活動

- ① 組合員加入運動に取り組み、組織基盤の強化をはかりました。
- ② 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地区別懇談会は中止としましたが、総代に向けてJAの取り組みや令和元年度決算等に関する意見とりまとめを行い、総代会や個別での回答・対応を行いました。
- ③ 身近な話題を掲載した「たより」の発行や店頭での掲示を通じて、組合員の拠り所となる地域に密着した支店・営農生活センターづくりにつとめました。

教育・学習の活動

- ① 協同組合運動の普及と拡大を目的に、家の光3誌(家の光、地上、ちゃぐりん)と日本農業新聞の普及に取り組みました。

地域貢献活動

- ① スポーツを通じた健康づくりや仲間づくりを応援するため、「JA たじま杯」として地域のスポーツ大会(少年サッカー、小学生バレーボール、少年野球)に協賛しました。

情報・広報活動

- ① 組合員広報誌「リレーション」は『みんなで作る組合員向け広報誌』を編集方針に掲げ、組合員やJA たじまの活動を広く知っていただくための誌面づくりにつとめました。
- ② JA たじまの活動をより多くの方に知ってもらうため、マスコミ各社に対するプレスリリースや、日本農業新聞への投稿を積極的に行いました。

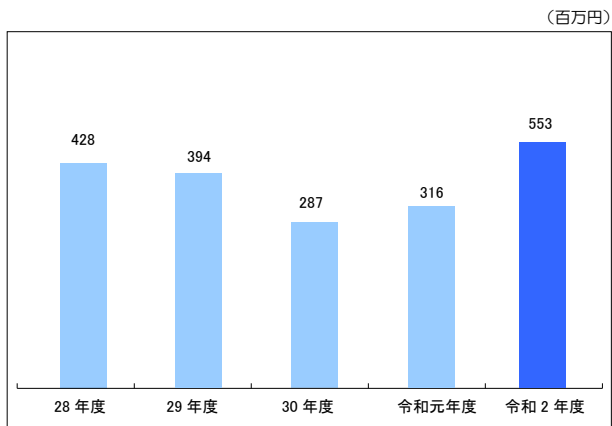
経営面の活動

- ① 不祥事の再発防止策として、各種研修によるコンプライアンス意識の向上や、業務マニュアルの運用徹底による内部統制の強化に役職員全体で取り組みました。
- ② 令和3年度から令和6年度を対象期間とした中期計画 Plan 2024 および経営改善計画の検討をすすめました。
- ③ 新人事制度の運用を開始し、組合員の負託に応える職員の育成につとめました。
- ④ 健全経営と内部統制の厳格化に向けて、監事監査・内部監査計画に基づいた定期監査、随時監査を実施しました。

令和 2 年度の主な業績について

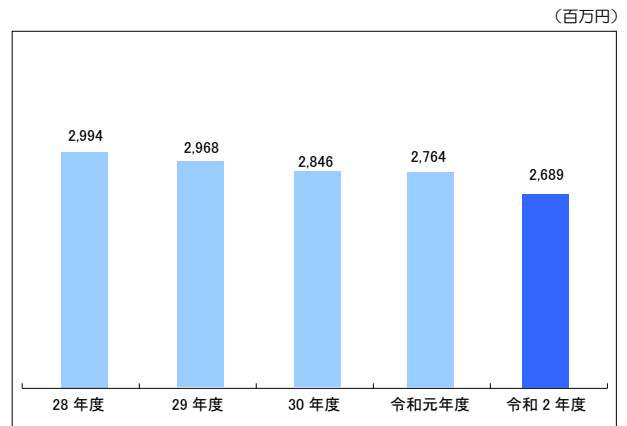
■事業利益

5 億 5,371 万円



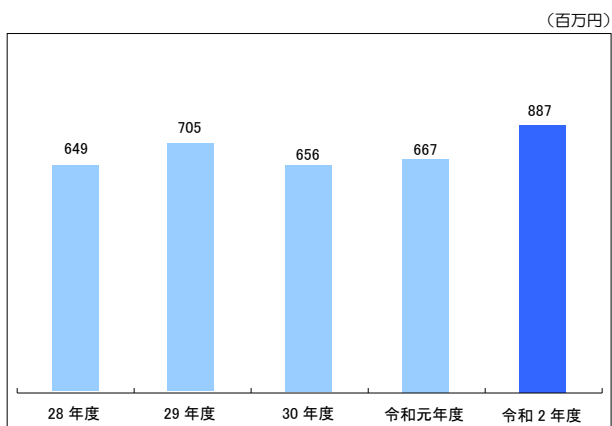
■購買品取扱高

26 億 8,956 万円



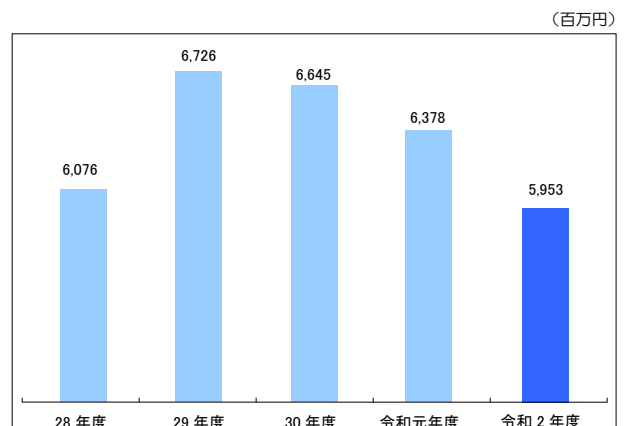
■経常利益

8 億 8,788 万円



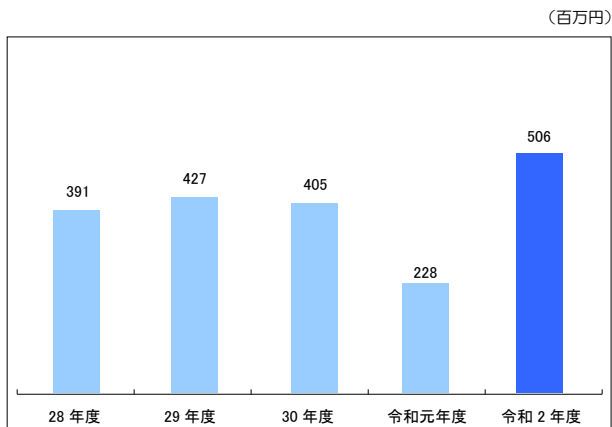
■販売品取扱高（受託販売）

59 億 5,360 万円



■当期剰余金

5 億 0,601 万円



J A たじまでは、平成 25 年度決算にかかる配当より、出資配当に加え、新たに事業分量配当を導入しています。

これは、「協同組合は利用者組織であり、組合員の事業利用によって生み出された剰余金は出来る限り組合員事業利用者へ還元する」という考えから導入したものです。

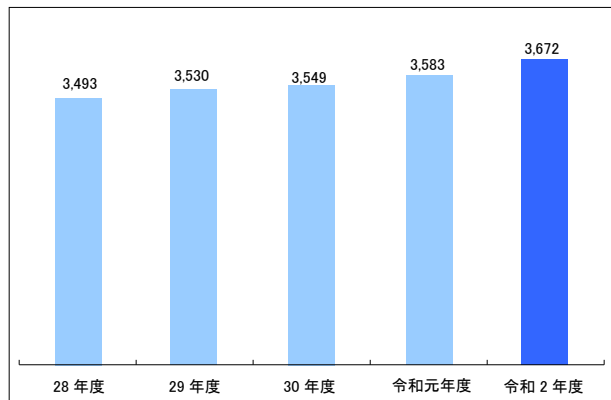
配当基準等については、48 ページの剰余金処分計算書をご覧ください。

令和 2 年度の主な業績について

■貯金残高

3,672 億 1,635 万円

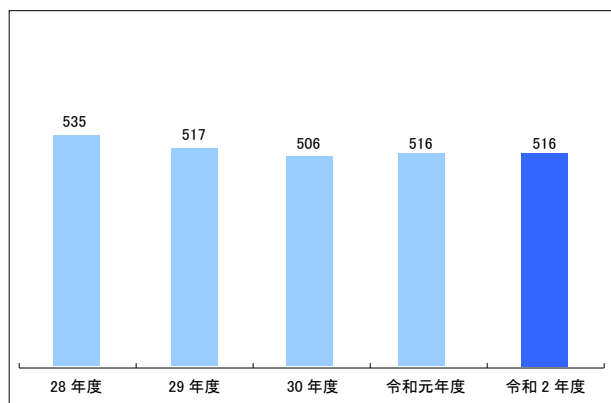
(億円)



■貸出金残高

516 億 1,593 万円

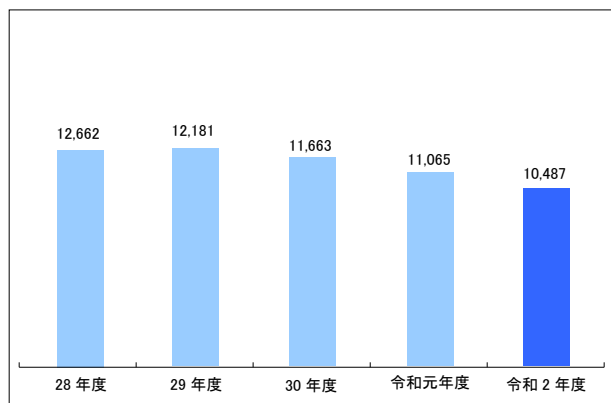
(億円)



■長期共済保有高

1 兆 0,487 億円

(億円)



令和 2 年度の自己資本の状況

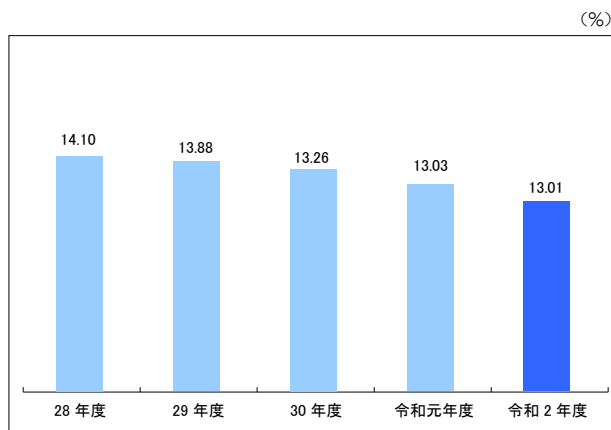
■自己資本比率

13.01%

当 JA では、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保につとめるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、令和 3 年 3 月末における単体自己資本比率は、13.01%となりました。

※ 国際統一基準（バーゼルⅢ）を踏まえた「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」（平成 18 年金融庁・農水省告示第 2 号）に基づき算出しています。）

※ バーゼルⅢは海外営業拠点を有する金融機関が対象となっており、農業協同組合はその拠点を海外に有しないことから、上記基準が示す自己資本比率は 4%以上（国内基準）とされています。



■普通出資による資本調達額

項 目	内 容
発行主体	たじま農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る 基礎項目に算入した額	4,288 百万円 (前年度 4,383 百万円)

自己資本の詳細については、62 ページをご覧ください。